

資料.

1. 斐川地域市民アンケート結果

回収率

調査実施日：2012.11.21～2012.12.5

調査対象者：斐川地域に在住の20歳以上の方

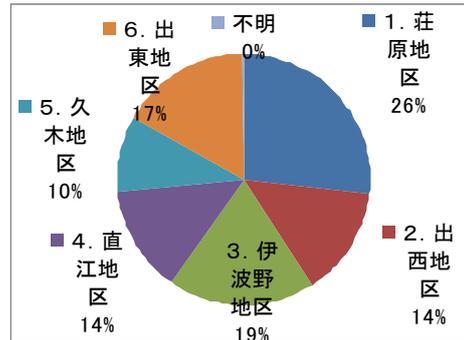
配布数：800人（無作為抽出）

回答数：308通（回収率39%）

	住所	配布数	地区別配布数	回収数	回収率
1. 荘原地区	学頭	37	210	83	40%
	荘原	112			
	神庭	13			
	三絡	18			
	上庄原	30			
2. 出西地区	阿宮	20	133	43	32%
	出西	47			
	神水	19			
	求院	25			
	併川	22			
3. 伊波野地区	富村	38	163	58	36%
	名島	12			
	鳥井	9			
	上直江	104			
4. 直江地区	直江	112	112	42	38%
5. 久木地区	美南	7	68	30	44%
	福富	15			
	原鹿	23			
	今在家	23			
6. 出東地区	沖洲	26	114	51	45%
	中洲	9			
	黒目	20			
	三分市	27			
	坂田	32			
不明				1	
合計		800	800	308	39%

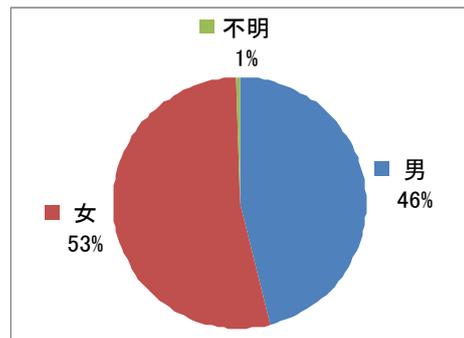
ア．住んでいる地区

	回答数	割合 (%)
1. 荘原地区	83	26%
2. 出西地区	43	14%
3. 伊波野地区	58	19%
4. 直江地区	42	14%
5. 久木地区	30	10%
6. 出東地区	51	17%
不明	1	0%
合計	308	100%



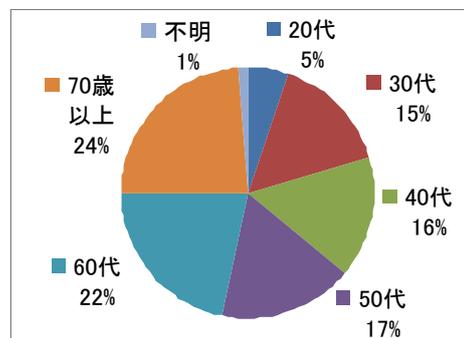
イ．性別

	回答数	割合 (%)
男	142	46%
女	164	53%
不明	2	1%
合計	308	100%



ウ．年齢

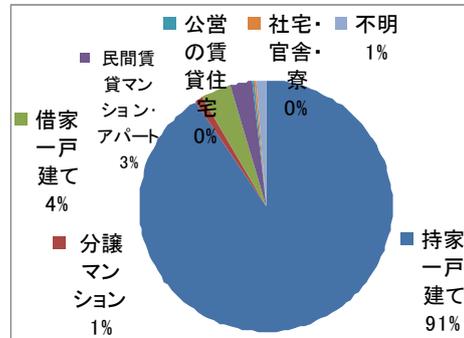
	回答数	割合 (%)
20代	16	5%
30代	47	15%
40代	48	16%
50代	53	17%
60代	67	22%
70歳以上	74	24%
不明	3	1%
合計	308	100%



エ．住まいの形態

回答全体における住まいの形態の割合は、「持家一戸建て」が約 9 割を占めている。

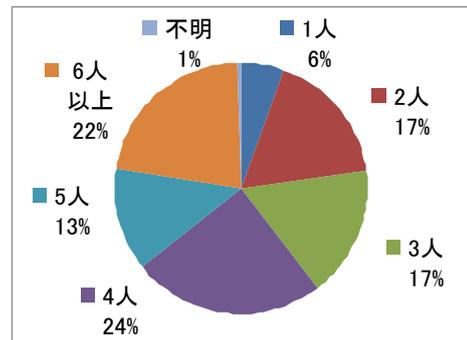
	回答数	割合 (%)
持家一戸建て	279	91%
分譲マンション	3	1%
借家一戸建て	12	4%
民間の賃貸マンション・アパート	9	3%
公営の賃貸住宅	1	0%
社宅・官舎・寮	1	0%
不明	3	1%
合計	308	100%



オ．同居人数

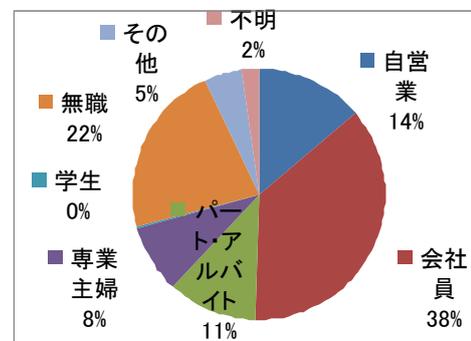
回答全体における同居人数の割合は、「1人暮らし」は最も少なく6%で、「4人以上」が6割を占めている。

	回答数	割合 (%)
1人	17	6%
2人	53	17%
3人	52	17%
4人	76	24%
5人	41	13%
6人以上	67	22%
不明	2	1%
合計	308	100%



カ．職業

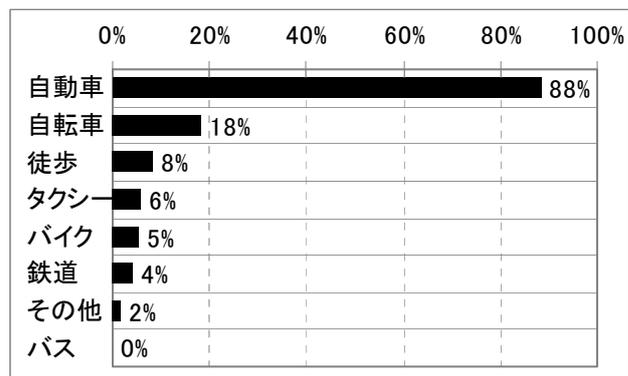
	回答数	割合 (%)
自営業	43	14%
会社員	113	38%
パート・アルバイト	35	11%
専業主婦	26	8%
学生	1	0%
無職	69	22%
その他	14	5%
不明	7	2%
合計	308	100%



キ．利用する交通手段（複数可）

主に利用する交通手段について、約9割の方が「自動車」を利用すると回答している。

自動車以外では、「自転車」、「徒歩」が上位にあるものの約1割～2割程度であり、「バス」、「鉄道」といった公共交通は、いずれも1割に満たない状況となっている。



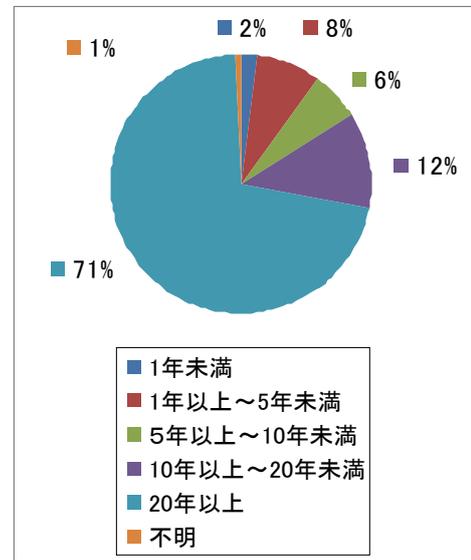
	回答数	回答率 (%)
自動車	272	88%
自転車	56	18%
徒歩	26	8%
タクシー	18	6%
バイク	16	5%
鉄道	13	4%
その他	5	2%
バス	1	0%
回答者数	308	

問1．本市での在住期間

『本市での在住期間』に関する問に対し、約7割の方が「20年以上」と回答している。

回答の約9割が持家であることも、在住期間の長い方が多い要因と考えられる。

	回答数	割合 (%)
1年未満	6	2%
1年以上～5年未満	25	8%
5年以上～10年未満	19	6%
10年以上～20年未満	36	12%
20年以上	220	71%
不明	2	1%
合計	308	100%

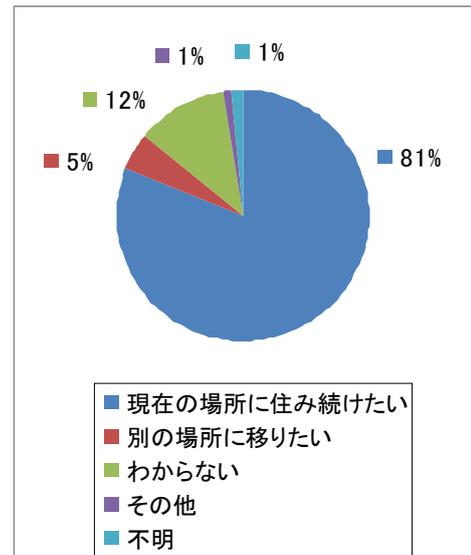


問2．居住意思

『本市に住み続けたいか』という問に対し、約8割の方が「住み続けたい」と回答している。

「別の場所に移りたい」とした方は、1割に満たない程度となっている。

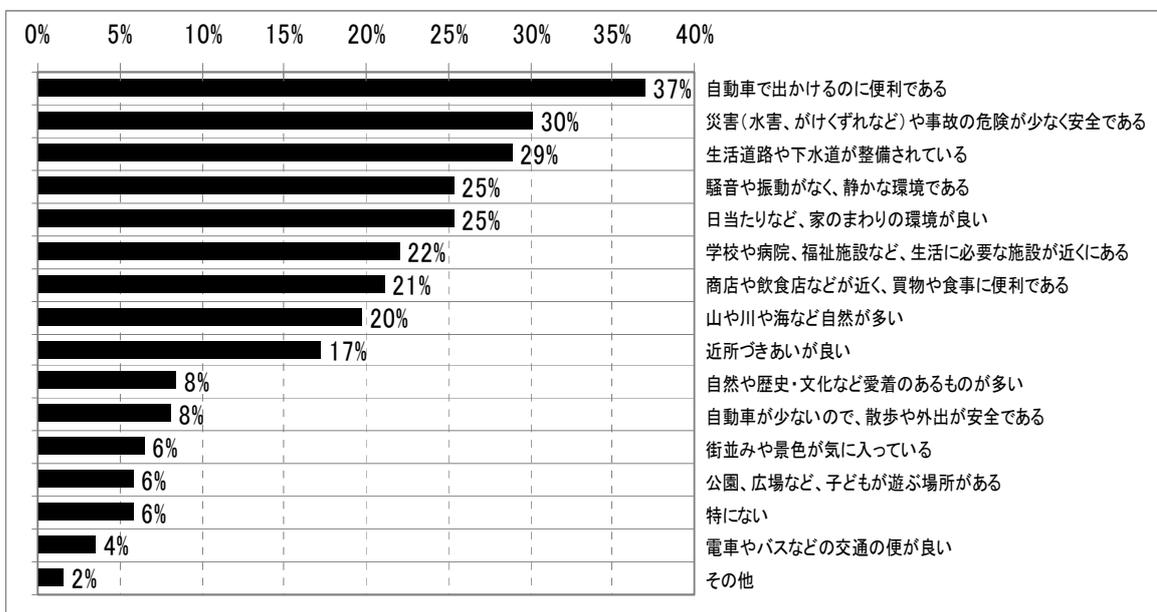
	回答数	割合 (%)
現在の場所に住み続けたい	250	81%
別の場所に移りたい	14	5%
わからない	36	12%
その他	4	1%
不明	4	1%
合計	308	100%



問3 . 満足していること（複数可）

住んでいる地区で『満足していること』として、約4割の人が「自動車で出かけるのに便利である」と答えている。

その他、安全性や生活道路の整備などに満足している方が多くなっている。

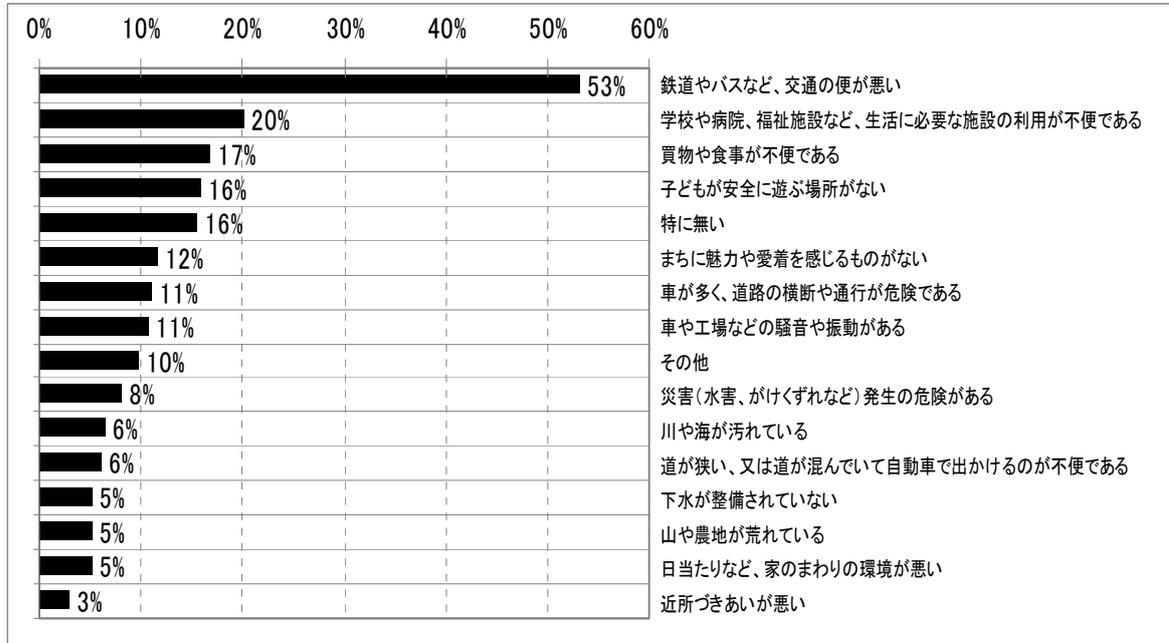


	回答数	回答率 (%)
自動車が出かけるのに便利である	114	37%
災害（水害、がけくずれなど）や事故の危険が少なく安全である	93	30%
生活道路や下水道が整備されている	89	29%
騒音や振動がなく、静かな環境である	78	25%
日当たりなど、家のまわりの環境が良い	78	25%
学校や病院、福祉施設など、生活に必要な施設が近くにある	68	22%
商店や飲食店などが近く、買物や食事に便利である	65	21%
山や川や海など自然が多い	61	20%
近所づきあいが良い	53	17%
自然や歴史・文化など愛着のあるものが多い	26	8%
自動車が少ないので、散歩や外出が安全である	25	8%
街並みや景色が気に入っている	20	6%
公園、広場など、子どもが遊ぶ場所がある	18	6%
特にない	18	6%
電車やバスなどの交通の便が良い	11	4%
その他	5	2%
回答者数	308	

問４．不満に思っていること（複数可）

住んでいる地区で『不満に思っていること』として、半数以上の方が「鉄道やバスなど、交通の便が悪い」と答えている。

その他、生活に必要な施設の利用の不便さや買い物や食事の不便さなどへの不満が上位となっている。

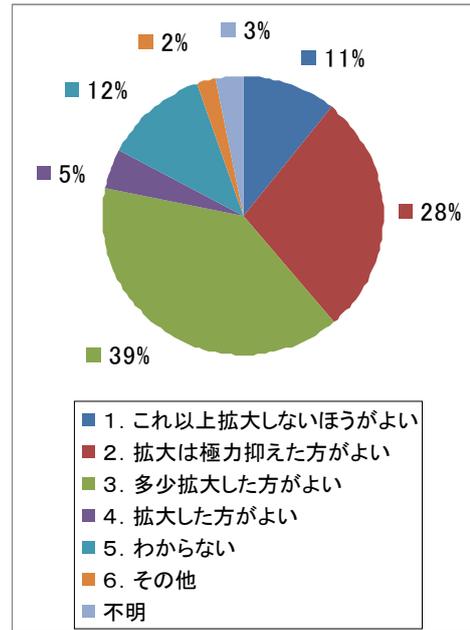


	回答数	回答率 (%)
鉄道やバスなど、交通の便が悪い	164	53%
学校や病院、福祉施設など、生活に必要な施設の利用が不便である	62	20%
買い物や食事が不便である	52	17%
子どもが安全に遊ぶ場所がない	49	16%
特に無い	48	16%
まちに魅力や愛着を感じるものがない	36	12%
車が多く、道路の横断や通行が危険である	34	11%
車や工場などの騒音や振動がある	33	11%
その他	30	10%
災害（水害、がけくずれなど）発生の危険がある	25	8%
川や海が汚れている	20	6%
道が狭い、又は道が混んでいて自動車が出かけるのが不便である	19	6%
下水が整備されていない	16	5%
山や農地が荒れている	16	5%
日当たりなど、家のまわりの環境が悪い	16	5%
近所づきあいが悪い	9	3%
回答者数	308	

問5 . 市の将来について（市街地の拡大）

人口減少、高齢化の進行が予想され、コンパクトな都市づくりが求められている中で、『本市における市街地の拡大についてどう考えるか』という問いに対し、「良好な街づくりであれば多少拡大した方がよい」との回答が最も多く約4割を占めている。

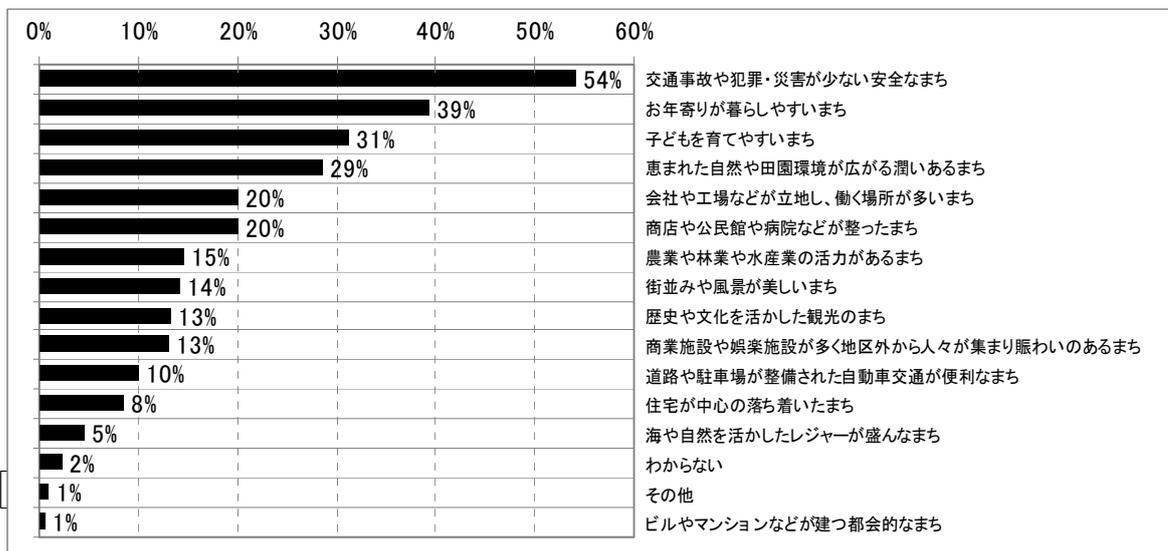
一方で、「拡大は極力抑えた方がよい」と回答した人は約3割で、「これ以上拡大しない方がよい」と回答した人も含めると、「拡大した方がよい」と、同程度となっている。



	回答数	割合 (%)
1. これ以上拡大しないほうがよい	33	11%
2. 拡大は極力抑えた方がよい	87	28%
3. 多少拡大した方がよい	120	39%
4. 拡大した方がよい	15	5%
5. わからない	37	12%
6. その他	7	2%
不明	9	3%
合計	308	100%

問6 . 地区の将来の姿（複数可）

『住んでいる地区が将来どのようなまちになったら良いか』という問いに対し、半数以上の方が「交通事故や犯罪・災害が少ない安全なまち」と回答し、次いで約4割の方が「お年寄りが暮らしやすいまち」と回答している。



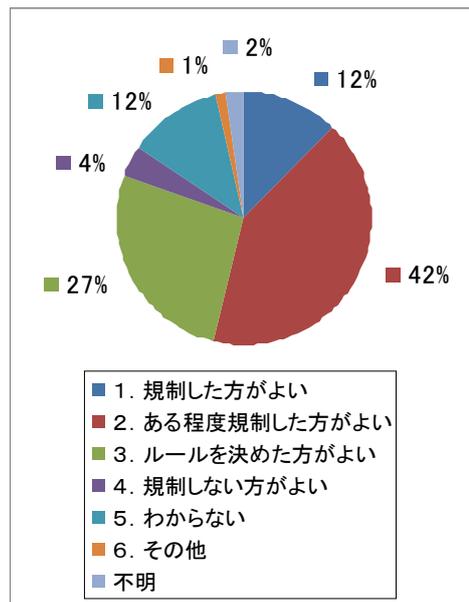
		(%)
交通事故や犯罪・災害が少ない安全なまち	167	54%
お年寄りが暮らしやすいまち	121	39%
子どもを育てやすいまち	96	31%
恵まれた自然や田園環境が広がる潤いあるまち	88	29%
会社や工場などが立地し、働く場所が多いまち	62	20%
商店や公民館や病院などが整ったまち	62	20%
農業や林業や水産業の活力があるまち	45	15%
街並みや風景が美しいまち	44	14%
歴史や文化を活かした観光のまち	41	13%
商業施設や娯楽施設が多く地区外から人々が集まり賑わいのあるまち	40	13%
道路や駐車場が整備された自動車交通が便利なまち	31	10%
住宅が中心の落ち着いたまち	26	8%
海や自然を活かしたレジャーが盛んなまち	14	5%
わからない	7	2%
その他	3	1%
ビルやマンションなどが建つ都会的なまち	2	1%
回答者数	308	

問 7 . 土地利用規制

『住宅地などの開発や土地の使い方についてどう思うか』という問に対し、「規制やルールを決めた方が良い」と回答した人は、約 8 割を占めており、中でも「近隣トラブルが起きないように、開発や土地の使い方はある程度規制した方が良い」と回答した人が一番多く約 4 割を占めている。

「規制しない方が良い」と回答した人は、1 割に満たない状況となっている。

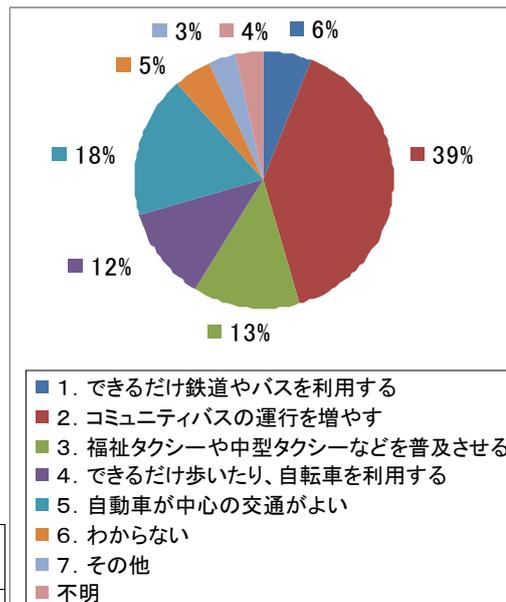
	回答数	割合 (%)
1. 規制した方がよい	38	12%
2. ある程度規制した方がよい	128	42%
3. ルールを決めた方がよい	82	27%
4. 規制しない方がよい	12	4%
5. わからない	37	12%
6. その他	4	1%
不明	7	2%
合計	308	100%



問 8 . 交通のあり方

『これからの交通のあり方』に関する問に対し、「病院やコミュニティセンターを結ぶコミュニティバスの運行を増やす」といった意見が約 4 割と多い一方、「自動車にあまり頼らず、できるだけ歩いたり、自転車を利用する」や「できるだけ鉄道やバスを利用する」といった意見は約 1 割程度となっている。

	回答数	割合 (%)
1. できるだけ鉄道やバスを利用する	19	6%
2. コミュニティバスの運行を増やす	121	39%
3. 福祉タクシーや中型タクシーなどを普及させる	41	13%
4. できるだけ歩いたり、自転車を利用する	36	12%
5. 自動車を中心の交通がよい	55	18%
6. わからない	15	5%
7. その他	10	3%
不明	11	4%
合計	308	100%

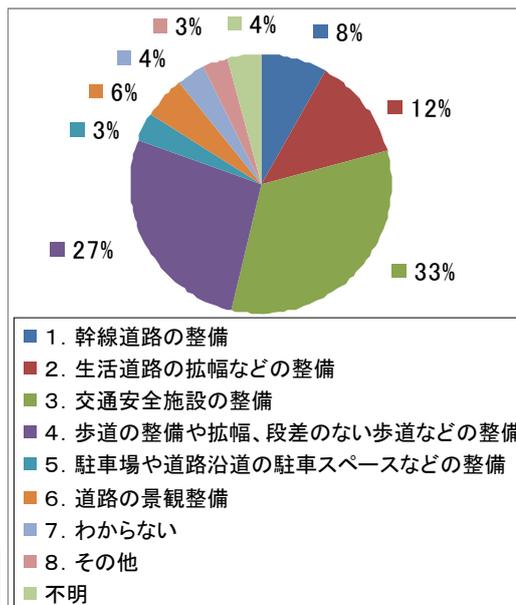


問9 . 道路整備のあり方

『これからのみちづくりの進め方』に関する問に対し、「交通安全施設の整備」や「段差のない歩道などの整備」といった安全性に関する回答がいずれも約3割を占めている。

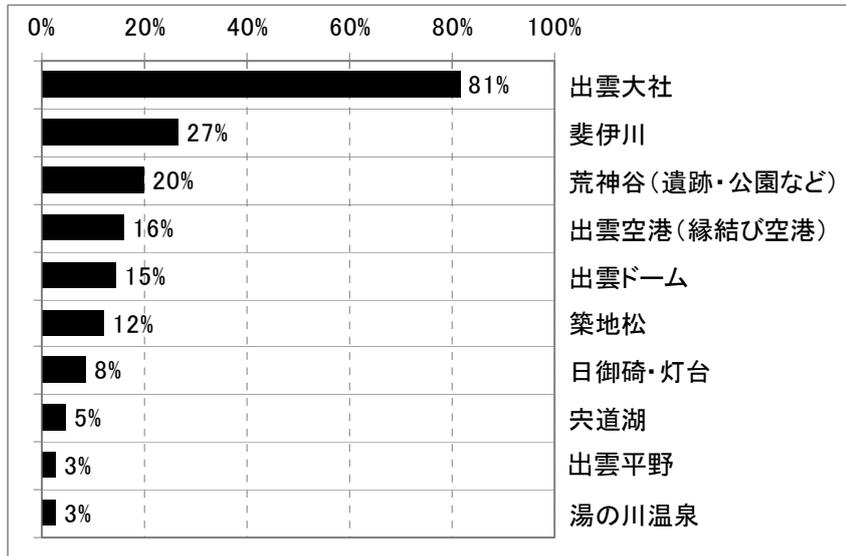
「幹線道路の整備」、「道路の景観整備」、「駐車スペースなどの整備」については、1割に満たない程度となっている。

	回答数	割合 (%)
1. 幹線道路の整備	26	8%
2. 生活道路の拡幅などの整備	38	12%
3. 交通安全施設の整備	101	33%
4. 歩道の整備や拡幅、段差のない歩道などの整備	83	27%
5. 駐車場や道路沿道の駐車スペースなどの整備	10	3%
6. 道路の景観整備	17	6%
7. わからない	11	4%
8. その他	9	3%
不明	13	4%
合計	308	100%



問 10 . 市のシンボル（複数可）

『出雲市のシンボルは何だと思うか』という問に対し、約 8 割の方が「出雲大社」と回答している。

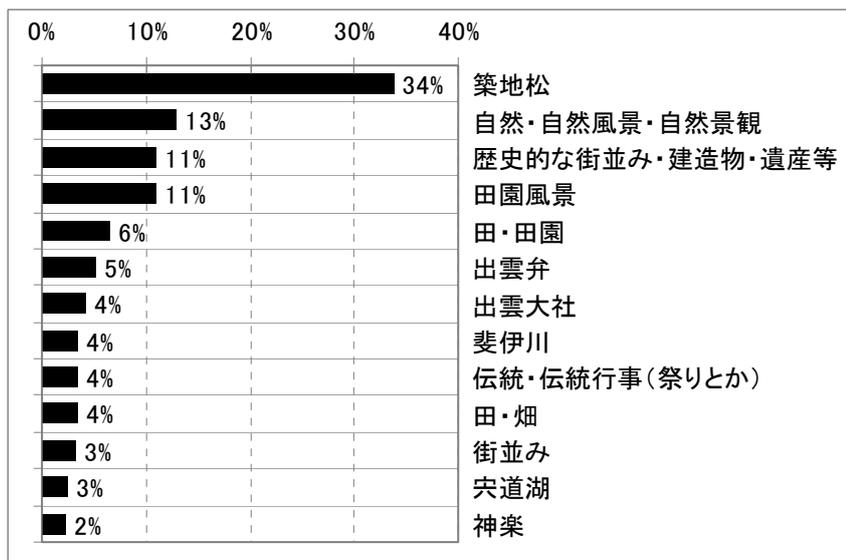


	回答数	回答率 (%)
出雲大社	251	81%
斐伊川	82	27%
荒神谷 (遺跡・公園など)	62	20%
出雲空港 (縁結び空港)	49	16%
出雲ドーム	45	15%
築地松	38	12%
日御碕・灯台	26	8%
宍道湖	14	5%
出雲平野	9	3%
湯の川温泉	9	3%
回答者数	308	

問 11 . 子孫への継承 (複数可)

『出雲市内で子どもや孫の世代まで残したいものは何だと思うか』という問に対しては、「築地松」が一番多く約 3 割、次いで「自然」、「歴史的な街なみ」、「田園風景」や約 1 割となっている。

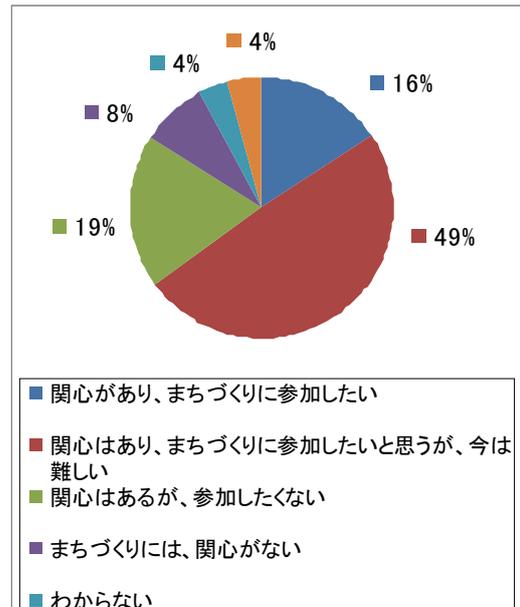
「自然」に関する事項と並んで、「伝統行事」など古くからのしきたりなどに関する事項や「出雲弁」といった意見も見られた。



	回答数	回答率 (%)
築地松	104	34%
自然・自然風景・自然景観	40	13%
歴史的な街並み・建造物・遺産等	34	11%
田園風景	34	11%
田・田園	20	6%
出雲弁	16	5%
出雲大社	13	4%
斐伊川	11	4%
伝統・伝統行事(祭りとか)	11	4%
田・畑	11	4%
街並み	10	3%
宍道湖	8	3%
神楽	7	2%
回答者数	308	

問 12 . まちづくりへの関心度

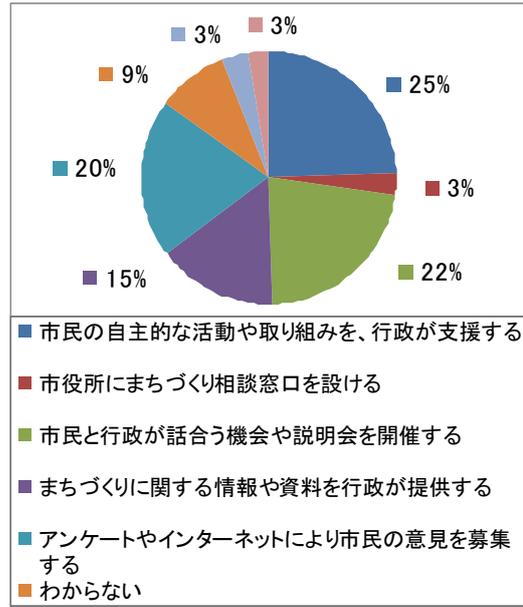
『まちづくりに関心があるか』という問に対し、約 8 割の方が「関心がある」と思っているものの、「まちづくりに参加したい」との回答は約 2 割程度となっている。



	回答数	割合 (%)
関心があり、まちづくりに参加したい	48	16%
関心はあり、まちづくりに参加したいと思うが、今は難しい	152	49%
関心はあるが、参加したくない	59	19%
まちづくりには、関心がない	25	8%
わからない	11	4%
不明	13	4%
合計	308	100%

問 13 . 協働まちづくりの取り組み方

『市民と行政が協力しながら進めるまちづくりに必要な取り組み』に関する問に対して、「市民の自主的な活動や取り組みを、行政が支援する」、「市民と行政が話合う機会や説明会を開催する」、「アンケートやインターネットにより市民の意見を募集する」といった、積極的な取り組みに関する意見が多くなっている。



	回答数	割合 (%)
市民の自主的な活動や取り組みを、行政が支援する	75	24%
市役所にまちづくり相談窓口を設ける	9	3%
市民と行政が話合う機会や説明会を開催する	68	22%
まちづくりに関する情報や資料を行政が提供する	47	15%
アンケートやインターネットにより市民の意見を募集する	63	20%
わからない	28	9%
その他	10	3%
不明	8	3%
合計	308	100%

2. 策定の経緯

平成 24 年	11 月 21 日 ~ 12 月 5 日	市民アンケート調査実施
平成 25 年	2 月 14 日	都市計画審議会 - 中間報告
	2 月 21 日	関係課担当者会議(第 1 回)
	3 月 15 日	関係課担当者会議(第 2 回)
	5 月 10 日	土地利用調整会議
	6 月 18 日	建設水道委員会 - 説明
	6 月 25 日	全員協議会 - 説明
	7 月 2 日	斐川地域協議会 - 説明
	7 月 3 日 ~ 8 月 1 日	パブリックコメント募集
	8 月 26 日	都市計画審議会
	9 月 18 日	策定